



### 「先生に求められる心がまえ」

先日の運動会は、好天に恵まれ無事終わることができました。準備や後片づけには、沢山の保護者の皆さまのご協力があり、心から感謝しております。また子どもたちが、最後まで元気いっぱいの姿を見せてくれたことで私は大満足しています。会長のごあいさつにありました「運動は運命を動かす」は、けだし名言です。自分の身体を、いつでも自分の思いどおりに元気に動かせる人は、自分の運命を切りひらいていくことができると理解しました。子どもたちのなかには、その力が充分備わりつつあるようです。

ところでモンテッソーリ教育では、先生を「教える人」ではなく、「手助けする人（援助者）」と位置づけています。先生がクラスの主役となって全てをリードするのではなく、主役である子どもたちの持つさまざまな能力が、うまく表に出てくるように手助けする脇役的存在です。その脇役が効果的に演じられるように、モンテッソーリは大切な心がまえとして以下のことを求めています。

- ① まず「愛情」です。子どもは小さく、かわいく、純粋な存在ですので、愛したいという気持ちを持つのは当然です。しかしそれだけではなく、ひとりの人間として強い興味・関心を持つことが大事です。なぜなら、それによって冷静かつ客観的な観察者となれるからです。
- ② 次は「信頼」です。私たちは、子どもが本来持っている自分の良い姿を、必ず表に出してくれることを信じなければなりません。また、子どもは自分の成長に必要なことを選択できることを信じる必要があります。だからこそこの信じるものの実現に向かって、力強く進むことができるのです。
- ③ さらに求められるのは「忍耐」です。子どもの自由意思を尊重するということは、子どもの生活リズムにおとなが合わせるといことです。当然そこではリズムのくいちがいがでてきますが、それをおとなのリズムに合わせようとすると、子どもの良いものを出す芽をつんでしまうことになります。
- ④ 最後は「謙虚さ」です。おとなが、「私はあなたより全てのことで優れていますよ。」という気持ちを見せたら、子どもは素直な姿勢を見せなくなります。だから、「私はまだ未熟だから、あなたからも学ばせて下さいね。」という気持ちを、それこそ素直に見せなければなりません。

何だか実行が難しそうな心がまえですが、決してそうではありません。大切なのは、子どもが立派な人間に成長してくれることを強く願うかどうかです。その願いを、もう一度あらたにしてみましよう。（園長より）



### 10月の行事予定

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	体育の日
11	火	
12	水	
13	木	内科健診
14	金	園外散歩
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	避難消火訓練
19	水	
20	木	内科健診
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	誕生会
25	火	新入園説明会
26	水	ふわふわルーム ペアレンツくらす
27	木	芋ほり遠足
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

体育教室 5歳児 月曜日

3日・17日・24日・31日

絵画指導 4歳児

6日 木曜日